

会員見学会ご参加の皆様へ

日頃より私共（財）C.W.ニコル・アファンの森財団（以下、アファンの森財団）の活動にご支援いただきましてありがとうございます。

この紙面にて、財団の活動を少しご案内申し上げます。

アファンの森財団は放置された森を整備し再生することを活動の原点としています。皆様には本日そのよみがえった森で、手を入れてきた本人である松木と一緒に様子を見ていただきます。

ニコル理事長の驚きと絶望のすえ、幽霊森と呼ばれ人も動物も寄せ付けなかった窒息状態の森を買い取り始めたのは今から20年前でした。その日から地道に手を入れてきたのです。



やぶ刈り作業



間伐作業



苗木の植樹

アファンの森はもともとスギの国有林でした。戦後に木を伐採し開拓地として払い下げられ、農地や薪炭林として使われていましたが、その後は利用価値がなくなり放置され荒れていったのです。



手を入れる前
(40年近く放置された森)



手を入れた後
(同地点にて撮影)



(裏へ)

手を入れることにより、多様性豊かになったこの森では、すべての生き物たちがバランスを保つつ生命の環で結ばれています。



そして、この多様性の豊かさは、「森の恵」として人にとっての可能性の高さに繋がっていると考えています。

**木材・炭・山菜・キノコ・温暖化防止・水土保全
様々なセラピー(アロマ、カラー、サウンド)効果・森林療法・…**

放置されたままの幽霊森であれば…。多様性は可能性なのです

今このアファンの森において、どうお感じになりますか？

アファンの森財団の使命は、

**この美しいアファンの森をこのまま残してゆくこと
豊かな森の存在意義をうつたえること**

です、そのために次のような事業を実施しています。



森林整備



調査・研究



環境教育



国際交流



普及啓発

- 最近のトピックスとして…
- 樹種転換のための植樹 や チップ敷き(森林整備 2005/4~5)
 - 「会員の集い」実施 や HPリニューアル(普及交流 2005/12、2006/5)
 - “心の森”プロジェクト3年目に突入(環境教育 2006/3~)

トラスト募金にご協力いただき 土地を手に入れてもそれで終わりではありません。手を入れて再生してはじめて森が広がったことになります。トラスト募金に対しては「土地を〇〇だけ手に入れました」と明確に成果をお知らせできますが、「手にいれた土地を再生させました」については多くの時間がかかり数字で表すことも難しいです。

会員として継続的にご支援いただることはとてもありがたく、会員の皆様には改めて御礼申し上げます。見学会を事業や活動の紹介・報告よりも現在の森の様子をご覧いただくことに重きを置いているのは、このような意味からです。

「やっぱり豊かな森は必要なんだね」と実感できるような内容を発信するために、地道に活動してまいります。今後ともよろしくお願ひいたします。

2005年度の森や活動の様子を簡単にご紹介します。

Q. 森の面積は？

A. 約16.4haです。簡単に表すと400m×400mです。森としてはまだまだ小さいです。



Q. 生き物は何種類ぐらいですか？

A. 2004年度の調査では、

◆ 植 物：約350種（その内、目立つ木は約75種、長野県レッドリストに掲載されている種は3種）

今後の調査で600種近くになると予測されています。

◆ 哺乳類：約15種

ツキノワグマ、天然記念物のヤマネも確認されています。

「松木さん」という人が1種います。

今年度始めてイノシシが確認されました。



◆ 鳥 類：約60種（その内、長野県レッドリストに掲載されている種は10種）

フクロウの巣箱には3年連続で繁殖し、ヒナが巣立っています。

種数は森の状態で少し変化しているようです。

◆ 菌 類：約300種



Q. 調査してわかったアフアンの森の特徴は何ですか？

(写真:栗原賢治)

A.

◆ 森林整備作業が健全な里山環境を創り出している。

繁殖期に確認できた鳥類から評価すると、健全な里山環境であり、3年間大きな変化がみられない、森林整備しつつも多様性は保たれているようです。

◆ 昨年度造成した水路の水環境はよくない。

底生生物（水路の底付近にいる生物）の調査から、モンカゲロウ（水の汚濁に耐えられない種）とミズムシ（水の汚濁に強い種）に注目したところ、一般的に新設された水路は既存の水路よりも水環境は良くないようです。今後の自然回復が楽しみです。

Q. 森林整備はどんなことをしましたか？

A

- ◆ 2003年5月に植樹した苗木が雪により半分以上が幹折れ等の被害にあってしまいました。この修復作業と再び雪で折れてしまわぬよう、雪囲いの作業を行ないました。(2005/5、11)
- ◆ 昨年度造成した水路周辺に約440本の大きめな苗木(樹高2.5m前後)を植樹しました。(2005/5)
- ◆ 人の利用頻度が高い場所(ティピー裏の広場および、湧き水からサウンドシェルターまでの道)にウッドチップを敷きました。このウッドチップはアファンの森の間伐材をチップにしたもの。(2005/5)

Q. アファン“心の森”プロジェクトとはどんな活動ですか？

A. 日本アムウェイ株式会社「One by One こども基金」と財団法人 C.W.ニコル・アファンの森財団の協働により実施されているもので、2004年3月より活動していく、2005年は2年目に当たります。

『豊かな森で活動することは、人の心も豊かにする』ことを信じて、手さぐりで2年間活動してきた現在、次のような説明ができるまでに至りました。

心に何か詰まっているものがあれば、自然の一瞬の出来事や他人との関わりでの出来事を受け止めることはできない。この活動は、豊かな自然環境の中で**体全部で遊ぶ**ことを通して、日頃抑えられているもの、抑えてしまっているものから**解放**し、詰まっているものを**アウトプットする機会**(例えるなら「何か話をしたいことがあると他人の話は聞いていない」)である。その先に、他の生き物とのつながりや、自分の持つ可能性が発見でき、**自分も周りの人も皆大切な存在であることに気づいてもらう**ことを目指している。

2005年は、5回(3、5、8、9、10月)実施しました。

- ◆ 児童養護施設の子供たち：3回(2泊3日) のべ60人
- ◆ 盲学校に通う子供たち：2回(1泊2日) のべ18人

Q. 様子はどうでしたか？

A. 子供たちの「心の成長」は、**関わる大人たちの「心の成長」と「思い」**なくしては成り立たないことを実感する一年でした。また、その関わりが人工的な空間で行われているのではなく、「思い」と「手」が注ぎ込まれ、生き物の関わりで成り立っている「アファンの森」を中心に行われていることは、人の企てを越えて**活動を豊かにしてくれると**実感できました。(写真：菅洋志)

